

令和6年度 第3回 社会教育委員の会議 摘録

- 【日 時】 令和7年1月27日（月） 13時30分～15時20分
- 【場 所】 大牟田市 生涯学習支援センター 1階 多目的室
- 【出席委員】 横田委員、蒲原委員、堺(婦)委員、松尾委員、田中(吉)委員、江崎委員、江口委員、江寄委員、柿川委員、堺(裕)委員
- 【欠席委員】 竹谷委員、西田委員、久保委員
- 【行政関係者】 大倉野市民協働部長、高口市民協働部副部長、徳川生涯学習課長、浦川生涯学習課地域学習担当課長、西村スポーツ推進室長、田中生涯学習課社会教育主事、藤木生涯学習課社会教育振興担当職員
- 【欠席行政関係者】 佐藤人権・同和・男女共同参画課長、加藤世界遺産・文化財室室長

◆あいさつ

大倉野市民協働部長
堺議長

◆議題

1 子育て情報誌「おおむたっ子」への社会教育委員メッセージ

第2回 社会教育委員の会議で委員から提出された4つのテーマを受けてデザインされた、子育て情報誌「おおむたっ子」紙面案について協議。
以下の意見・質問が出た。

行政職員	前回の会議において提出されたテーマを集約し、『皆で子育てしていこう』という枠組みと、『社会教育委員とは地域でどんな役割をしている存在なのか』という枠組みの、2つの大きな柱で紙面のデザインを行った。前回の会議の中で、子育て世代が抱えている悩みに対して『SNS等を用いてアプローチを図る』『交流の場を設ける』等の提案が出され、また、社会教育委員については、何をしているのか伝わりづらいのでは？との意見も得た。それらを踏まえ、若い子育て世代が、地域の協力を受けるために周囲に声を掛けたり、困り事を相談したりするのは中々に難しいが、勇気を出す、一歩踏み出す、そのハードルを下げるために存在するのが社会教育委員であり、ぜひ気軽に頼ってほしい、一緒に子育てしていこうと呼びかける構成とした。
議長	先ほど述べられた、2つの柱で上下2段に分かれている紙面デザインについて、何か意見はないか。
委員	全体的なデザインに参加している。前回の協議では、地域での色々な取り組みに、若い母親が参加したくてもしづらいという問題が浮き彫りになった。それに対し、『地域は沢山の手が子どもを育ててくれるから、いつでも飛び込んでいいんだよ、勇気を出してみては？』とアピールするため、キャッチコピーを付けてみた。文章ばかりでは時間がない若い母親世代が読みづら

	いと考え、興味を引きそうなフレーズを設け、要点毎にグループ分けしている。
議 長	枠を用いてポイント別にブロック分けしているという事でよいのか。
委 員	また社会教育委員については、子育て世代を受け入れて行政と繋いでくれる存在だと分かりやすく伝えたいと思い、写真を含めたデザインを採用している。いかがだろうか。
委 員	『子育てはたくさんの手で』の項目で、文の結びに「子育てをしてほしいです。」とあるが、この表現をもっと優しく、柔らかくしてはどうか。小さなところではあるが、周囲や地域はこのように望んでいますよ、願っていますよ、信頼して欲しいな、という思いが伝わるように。
委 員	承知した。貴重な意見に感謝している。
委 員	背景色や文字など、全体的に黄 一色でまとめられているため、やや見づらいうように感じる。フォントを遊び心があるものに変更しては？面白味のある紙面でなければ読んでもらえないのではないかな。また、『行政が発行した印刷物』の固いイメージを払拭するため、枠を四角ではなく丸みのあるデザインに変更してはどうか。
委 員	本日の配布資料は仮印刷したもので、用紙も実際とは異なる。実物は印刷の発色はかなり異なり、背景色ももっと淡い色味で仕上がる予定である。枠については紙面全体のバランスを取りつつ、更に角を取っても良いかも知れない。
議 長	以上の意見をまとめ、参考にしてほしい。
委 員	了承した。デザイン等に活用していく。

2 令和6年度筑後地区市町村社会教育委員研修会について

事前配付資料「研修参加報告書」を基に、江寄委員、堺(婦)委員、田中(吉)委員より報告。
(意見・質問なし)

3 令和6年度社会教育・生涯学習事業報告について（中間報告）

事前配付資料「令和6年度社会教育・生涯学習事業報告」を基に、令和6年12月末までの各事業の進捗状況を所管課・室長より報告。

以下の意見が出た。

委 員	スポーツ関係の事業内容について意見を述べたい。昨年度、おおむたアリーナで開催された運動会に運営として携わった際、『新しい運動会の形を見た』と非常に強く印象に残った。大牟田市内には沢山の幼稚園、小学校、中学校がある。施設の有効利用や用途について、市民に対してもっと強くアピールをしたほうが良いと感じた。また、施設予約の際には、子どもたちを優先できるよう、配慮して欲しい。折角このような大規模な良い施設が出来たのだから、もっと宣伝していくべきなのでは。
-----	--

行政委員	おおむたアリーナは、構造の特長として、メインとサブ、2つのアリーナを有する点が挙げられる。市民体育館と第二市民体育館の解体にあたり、それらの体育館を定期利用していたスポーツ団体が今後も活動を続けていくために、本市の体育協会でも施設利用の調整に手を尽くしているところである。市としては勿論おおむたアリーナを大いに活用して欲しいが、体育施設の統合を含め、本年度はサンアビや労働福祉会館等、複数の施設の機能がおおむたアリーナ1箇所を集約されたため、会場としての使用については様々な配慮・検討の必要があった。今後とも、体育協会と協議を重ねながら、市民利用の機会の拡充を図っていきたい。貴重な意見に感謝する。
委 員	情報提供がなければ、市民にとっては、新しく出来た施設の利用価値について分かりづらい。先述の運動会では、保護者も子どもたちの評価も上々であった。行事におおむたアリーナを使用するという選択肢もあるのだということを、是非広く周知して欲しいと思う。

4 大牟田市子ども読書推進計画（第4次）（案）について

事前配付資料「大牟田市子ども読書推進計画（第4次）（2025～2029）」を基に、徳川生涯学習課長より報告。

以下の質問・意見が出た。

委 員	子どもが生まれた家庭向けに絵本を届けてくれる取組みがあったように記憶しているが、現在も続けられているのか。
行政委員	資料 P. 8に記載の「ブックスタート事業」である。
委 員	絵本の種類はどれほどか。
行政委員	3種類ある。
委 員	学校の図書館について、自分の子どもが小学校低学年の時、「読める本は全て読んでしまったから、図書館へ行く必要性を感じない」と言っていた。学校での書籍の入替えは行っているのか。
委 員	定期的に新刊の購入を行っている。また、タブレットを使って電子図書館が利用できるのも、是非活用してほしい。
委 員	自分の子どもは、学校や大牟田市立図書館で賄えない本は、荒尾市の図書館まで通って読んでいる。公民館で借りられる本の種類も、もっと充実させて欲しい。子ども達は宿題や遊び等で意外と公民館を利用している。
行政委員	意見に感謝する。各公民館も、図書館と協働して本の入替えを行っているが、限られた予算の中での対応となるため、中々に難しいところである。
委 員	公民館にある本を広報で紹介するなど、子どもの興味を引くような取組みを行っては？読書を通じて、子どもの非行の抑止に繋がると思う。悪い事に対する興味やストレスを、本で解消できる仕組みは作れないだろうか。昨今、子どもが関連する犯罪の大人化がどんどん進んでいる印象を受ける。
委 員	実際、本を読む環境に個人差はあると思う。親が全く読書しない家庭では、

	子どもも本に興味を持たない。自分の子どもは、『小さい頃にお母さんが薦めてくれた本を読んでおいて良かった』と言ってくれた。やはり、親が読書をしなければ子どもは本が好きにならない。趣味が読書！と言えるような環境づくりも大事なのでは。
委 員	荒尾市の図書館は非常に環境が良い。図書館の横に書店がある。自分の子どもによると、勉強するスペースが広く、とても学びやすいとのことである。
委 員	読書をする、物事を深く考え、捉えられるようになる。極めて暴力的な事件が増加する昨今、子ども達には、他人を傷つけない方法や考え方を育てて欲しいものである。
委 員	大人になってから、子どもの頃に本を読めば良かったと痛感し、改めて図書館の重要性について実感するようになった。
委 員	校長会の議題として是非取り上げたいと思う。コロナ禍では『うちどく』の推進に取り組んだ。先にもあったが、学校だけでなく家庭での読書推進も大事だと感じる。また、本市は電子図書が利用できる点が非常に良いと思う。歴史の本など、一冊の本を繰り返し読んで知識を磨き、先生より詳しくなった子どもも居る。『本は頭のごはん』という言葉があるように、先生が教えられない知識は本が教えてくれるものである。更に、国語の教科書に取り上げられている本が各学校の図書館で読める取り組みも進めている。
委 員	本を沢山読む子どもは、国語だけでなく、算数の文章問題も読解出来る。
委 員	全国共通学力テストは、問題用紙が冊子タイプなので、文章を読み慣れていないと解き進めるのが難しい。やはり、学力の基礎には読書が必要だと感じる。ブックスタート事業など、子どもが小さな頃から本を読み聞かせてもらえる環境を整えている本市の取組みは、とても有り難く思う。柳川市など他の市に比べて、本市は読み聞かせのサークルが非常に多い。学校や家庭だけでなく地域も協働して、子どもの読書に取り組んでいるのだと実感できる。
行政委員	貴重な意見に感謝する。新刊の購入については図書館、公民館含めて行っているが、新しい書籍に関する情報発信が充分に出来ていない現状がある。色々な媒体を活用して新刊の情報を子どもたちに届けられるようにしていきたい。また、資料2章のアンケート調査結果にあるように、読書する子どもとしない子どもの両極化が進んでいると見受けられる。本を読まない子どもに関しては、その親の読書習慣を育てるなど、家庭を含めたアプローチが必要であると考え。今後とも、学校や公民館での読書ボランティアの活躍の場の創出など、あくまで仮だが、来年度の『まちづくり交付金』にも織り込んで行きたいところである。
委 員	みなと小学校区にも読書ボランティアが居るが、後継者不足とのことだった。読書ボランティアが居ない校区は、他の校区から招いて活動してもらっている。行政には、読書ボランティア募集の記事を広報に掲載するなど、ポ

	ランティア団体と連携して人材の掘り起こしに協力して欲しい。
委 員	ある学校では、平和学習をする際に、生徒が語り手をしたそうである。本市でも、例えば卒業生が在校生に対して読み聞かせをする等、授業時間の枠が確保出来れば、次の世代へ繋がるのでは？
委 員	確かに、幼稚園、小学校、中学校、高校の連携、提携がスムーズに出来ていない印象を受ける。
委 員	これだけ長くSDGsをやっているのに、折角の取組みが実際には繋がっていないように感じる。
委 員	繋がりが生まれれば、様々な問題の解決になるのでは？例えば不登校等。
委 員	本市では、コミュニティスクールの取組みを行っている。他の市では小学校のみ、中学校のみの実施であるが、本市では本年度から宮原中学校区で、小学校から中学校一貫で子ども達を育てるコミュニティスクールの立ち上げが行われた。来年度からは宅峰中学校と3つの小学校が協働、連携することで、SDGsに繋げていく予定である。
委 員	小学校と中学校の連携は上手く出来ていても、保育園・幼稚園の繋がりは弱いように感じる。子ども達の意見を聞く交流会の機会を是非設けるべきである。小学校と中学校はコミュニティスクールを作るにあたり、子ども達の学校教育目標を立てる。『どういった子どもを育てるか』という、先生達が共通意識を持って取り組む目標で、非常に素晴らしいと思う。
委 員	宮原中学校と3つの小学校が連携して『地域が育てる子ども』というテーマに沿い、教育委員会の力も借りながら、モデル校としての取組みを進めている。
委 員	小学校会でも是非議題として取り上げていきたいと思う。

5 第77回はたちの集い実施状況について（報告）

当日配付資料「第77回はたちの集い実施状況について」に基づき、浦川生涯学習課地域学習担当課長より報告。

以下の意見が出た。

委 員	パンフレットとお菓子をエコバッグに入れて渡す取組みが非常に素晴らしい。以前はパンフレットを会場に置いて帰る新成人がかなり多かったが、エコバッグになってからは放置がなくなった。お金は掛かると思うが、やはり本市のキャラクター『ジャー坊』がプリントされていることで、愛着が沸き、大事にするのだと思う。とても良い事である。
行政委員	お菓子の原材料費の高騰など予算の関係もあり、今後どうなるかは分からないが、ご好評に感謝する。

6 その他

- ・ 3月16日（日）午後開催の「つばさの会おおむた」報告会についてのお知らせ
- ・ 本年度をもって『小・中・特別支援学校PTA連合会』の推薦委員枠より任を外れる蒲原委員からの挨拶

⇒次回会議 令和7年7月頃 予定